

JCI-TC162A：電気化学的手法を活用した実効的維持管理手法の確立に関する研究委員会
第1回 全体会 議事録（案）

日 時：2016年6月29日 15:00-18:00

場 所：JCI会議室

出席者：山口委員長，加藤幹事長，皆川主査，審良主査，福山幹事，吉田幹事，金田，兼松，河合，大谷，染谷，田中，津田，中村，星，山本，事務局：岡田，加藤（敬称略）

配付資料

全 1-0：第1回全大会議事次第

全 1-1：委員会名簿

全 1-2：平成28年度 研究委員会・研究課題申込書

全 1-3：全体会 メモ

全 1-4-1：性能診断 WG 活動方針（案）

全 1-4-2：性能診断 WG

全 1-5：劣化対策 WG 活動（案）

全 1-6：JR 西日本における電気化学的補修の現状と課題

全 1-7：予算

議事

1. 委員長挨拶

山口委員長から挨拶がなされた。

2. 自己紹介

各委員から自己紹介がなされた。

3. 委員会の検討内容（WG 活動案含む）と WG メンバー

資料全 1-3，全 1-4-1，全 1-4-2，全 1-5 に基づいて委員会の活動方針が説明された。主な議論は、次の通り。

○性能診断 WG

- 示方書の維持管理編の改訂では、現象と劣化機構に分かれているが、実際は劣化機構が分からないことが多いので、現象をベースにした維持管理の検討を進めている。劣化機構をベースにした精緻な予測が可能な点検・診断と、簡易な点検をベースとした簡易な診断の 2 本立てがあると、構造物の所有量が多い地方自治体等の役に立つと思われる。

→簡易な方法から詳細な方法まで、網羅的に対象として、各手法の適用限界等をまとめることが必要。テクニカルな整理は 1 期目で実施しているので、実務上の問題等を整理する必要がある。その後、その結果に基づき、維持管理の考え方を検討できれば良いと思われる。

- 実構造の性能診断では、時系列のデータ、面的なデータ等をどのように活用して、評

価すべきか、についての検討が必要となる。

- データの取り方についても検討する必要がある。例えば、塩分のプロファイルも、単純にコア抜いて、スライスして計測するのでは無く、環境条件、含水率等を踏まえたデータ収集のあり方（構造物のどの位置から試料を採取するのか）等を検討する必要がある。

○劣化対策 WG

- 土木学会の 338 委員会で検討している内容があるので、それをベースに議論を進めると良い。
- 電気化学的な対策工法は、効果があるとされながらも活用されていない問題点等を検討する必要がある。
 - 対策した後に工法の維持管理が面倒なので活用されていないということがあるが、それほど、維持管理が煩雑で面倒なのか？実際の維持管理コスト（適切な維持管理をベースとして）がどの程度なのかを明らかにすると良い。
- 海外の状況等はどうか？日本と違うとすれば、何が違うのか？
- 建築分野の電気化学的対策工法の適用事例は？
 - 大阪城（再アルカリ化）、他数件程度と思われる。ただし、ヨーロッパなどでは活用しているかもしれない。
 - 日本でもパーキングでの活用事例はあると思われる。

以上の WG の活動案に基づき、各委員の WG を次の通りに決定した。

○性能診断 WG：金田，兼松，河合，染谷，中村，星

○劣化対策 WG：大谷，佐々木，染谷，竹子，田中，津田，山本

4. 話題提供（吉田幹事）

吉田幹事から JR 西日本の電気化学的対策工法の現状について、話題提供がなされた。

5. その他

次回 WG の日程は次の通り。

性能診断 WG：8月22日（月）15:00-18:00

劣化対策 WG：8月23日（火）9:30-13:00

以上